

### 第8章 1. 東アジア・東南アジア世界の動向 a. 明の興亡

① 14世紀中期 [1 白蓮教] 教徒による[2 紅巾] の乱発生→[3 元]、北方へ退く

↓  
1368 紅巾軍の首領[4 朱元璋]]=[5 洪武]帝、地主層の支持をえて[6 江南]を拠点に[7 明]を建てる(首都[8 南京])

② 洪武帝の政策=[9 皇帝]への権力集中と[10 農村]支配の強化、[11 民族]意識強調  
ア) 皇帝独裁の強化→[12 中書]省・丞相の廃止、[13 六部]を皇帝直属とする  
(行政の最高機関) (行政機関)

イ) 農民政策→「土地と租税負担者を確定」

明の村落支配…明は土地と人民の支配の強化をすすめた。全国的人口調査をもとに人民を里・甲に編成し村の連帯責任制を強化する[14 里甲]制をおこなうとともに、土地台帳[15 魚鱗図冊]と租税・戸籍台帳[16 賦役黄冊]を整備、里ごとに[17 六諭]を唱えさせ道徳を強制した。

土地台帳=どのような耕地があり、どのくらいの収穫高や税収があり、所有者は誰かなどを記載した台帳  
租税台帳=それぞれの家がどれだけの租税を支払うかを記した台帳  
戸籍=それぞれの家族構成などを記した台帳

ウ) 官制…[18 科挙]を整備し、[19 朱子学]を官学とする

エ) 軍事=[20 衛所]制=戸籍を軍戸、民戸などに分ける。

オ) 法制=大明律・大明令

③ 14世紀末 燕王(北京が拠点)、皇帝の位を奪い[21 永楽]帝となる([22 靖難]の役)

ア) 都を[23 北京]にうつす

イ) 積極的な外交政策をとる=[24 鄭和]の南海地方への大遠征→メッカ、東アフリカに達する

鄭和…[25 明]の航海家。[26 イスラム]教徒で[27 宦官]。6回にわたり大艦隊を率いて東南アジアからインド洋をへて[28 東アフリカ]に達し、南海諸国は次々に明との[29 朝貢]関係を結んだ。また[30 メッカ]巡礼もおこなった。

ウ) 外交政策=[31 海禁]政策…民間人による[32 海上交易]を禁止、[33 朝貢]貿易に限定  
=「鎖国」 主人(明)と家来(周辺諸国)が貢ぎ物と返礼をするという形式の貿易

④ [34 北虜南倭]

北虜南倭…[35 明]時代、その周辺を脅かした勢力。北方の[36 オイラト]やタタール(韃靼)など  
モ[37 モンゴル]系民族の活動と、南海における[38 日本]人や中国人の海賊([39 倭寇])の活動をいう。

ア) モンゴルの侵入(北虜) オイラト部→[40 土木]の変(1449)=エセン=ハン、英宗正統帝を逮捕  
[41 タタール]部→アルタン汗の侵入(16世紀)

イ) 日本人などの海賊([42 倭寇])の横行(南倭)

ウ) 16世紀末～17世紀 [43 豊臣秀吉]の朝鮮侵略→援助を送る

エ) [44 女真]族による[45 満州]統一(後金の成立)→明と対抗

⑤ 明の立て直し

ア) 税制の改革=[46 両税]法から[47 一条鞭]法に改める

一条鞭法…[48 明]代後期、唐以来の[49 両税]法にかわって採用された[50 税法]。税を土地に課せられる税である[51 地銀]と、個人に課せられる税である[52 丁銀]の二つに整理し[53 銀]で支払わせるようにした。これによりこれまでの[54 人頭税]などが廃止された。

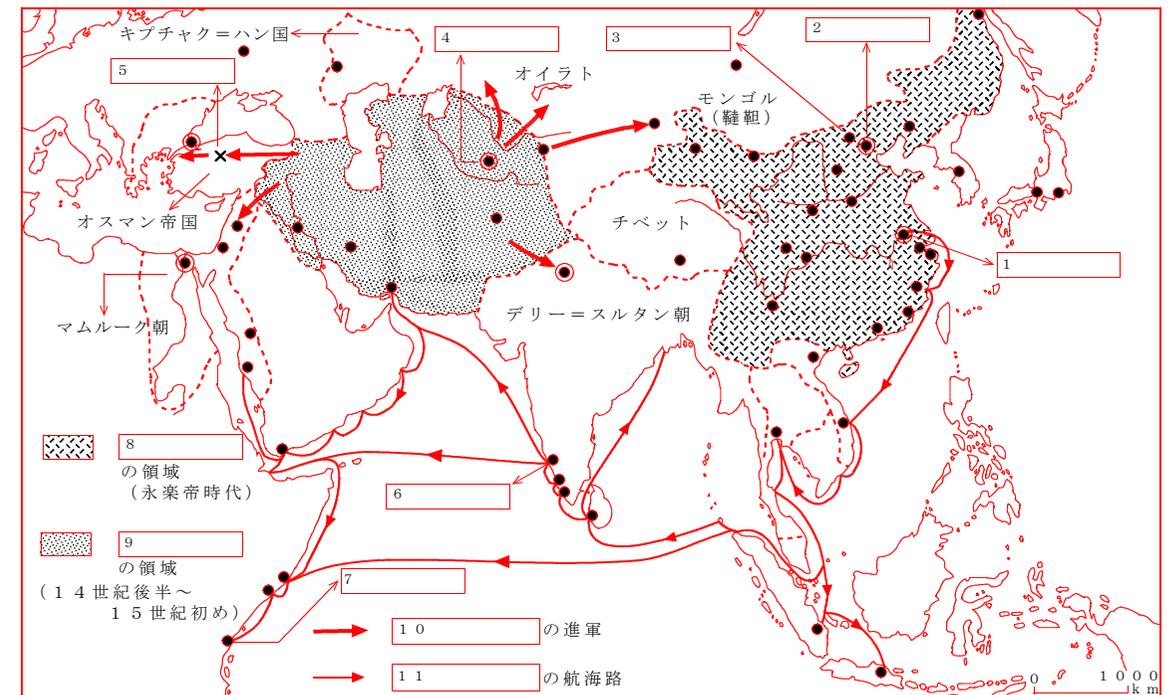
イ) [55 張居正]の改革(16世紀後期) 神宗万曆帝

→官僚らの反発を買う=官僚の抗争([56 東林]党と非東林党の党争の激化。宦官の横暴)

⑤ 政府への反発の高まり、小作農の反地主闘争([57 抗租抗糧]運動・奴変)の激化

(鄧茂七の乱 15c前半など)

→[58 李自成]の乱(=農民反乱)のなかで明滅亡



明代のアジア(15世紀ころ)